

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山（桜館）		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	令和6年3月12日	評価結果市町村受理日	令和6年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2172800548-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して19年が経とうとしています。「どこにもない暮らしを自然豊かな笑顔あふれる暖かな家」をコンセプトとし、全職員一丸となり住み慣れた地域で認知症になっても暮らしていけるサービスを提供し、支援しています。今年度、介護人材育成認定制度G3を取得し補助金を活用し、外部講師を招きスキルアップ研修を行い、職員のモチベーションアップに努め、専門性の高い認知症ケアを提供できるチームを目指しています。4月からは、社会資源の一端として地域貢献するために、共用型認知症対応型通所介護を開設します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域唯一の認知症専門施設として地域に溶け込み、頼りにされる存在となっている。和のぬくもり溢れる木造りの事業所で、食事は職員が旬の食材を活用して三食手作りし、職員も同じ物を一緒に食している。一人ひとりが慣れ親しんできた趣味活動等を、楽しみながら継続できるよう支援している。コロナ感染症5類移行後は、近郊へのドライブや外食、喫茶店等への外出支援や隣接する畑での野菜作りなど、行なっている。近隣住民との交流機会もある。運営推進会議に家族の参加も多く、意見を吸い上げ運営に活かしている。看取り体制も整え、家族が安心して最後まで託せる支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(桜館)

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに理念を掲示している。又職員会議で理念と理念の三本柱を唱和し、職員全員が意識し、理念の実践につなげている。	理念の3本柱を職員が常に意識できるよう、各ユニットのリビングに手書きの大きな字で掲げ、目につくようにしている。また、職員会議で唱和し、確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が深まる様に、ボランティアの方々をお招きしている。	自治会員として地域の清掃活動や防災訓練に参加している。住民から野菜の差し入れを受けたり、事業所の畑作業の際には、近隣の人達からの声掛けがある。地域ボランティアの受け入れを行いながら、地域との交流を継続している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より奇数月に会議を行っている。活動報告、入退居状況、事故報告を行い出席者から意見をもらっている。以前と比べ、家族、地域の方々の参加が多数あり、より良い運営に活かしている。	2か月毎に対面で開催している。行政・地域包括・自治会班長・長寿会・家族等の参加があり、様々な意見を得ている。自治会から「防災の面で協力したい」との心強い申し出もあり、事業所への理解を深められる機会となっている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回行政の参加があり、助言等を頂いている。又、管理者は行政主催の会議には参加するよう心掛け、常に関係を気づいている。	市主催の懇談会には毎回参加しており、市からは認知症対応ケアに関する研修会講師を依頼されるなど、行政との情報交換・連携など、協力関係が出来ている。地域の要望にも応え、行政の協力の下で新年度から認知症対応型通所介護をスタートする。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、玄関の施錠は行っていない。身体拘束適正委員会にて、常に検討、改善を行っている。	身体拘束等の適正化委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて検討・学習を行い、具体的な対応法を明確にしている。それらの議事録を全職員に回覧し、共有しながら学びを深めている。	身体拘束等の適正化委員会の議事録と虐待防止委員会の議事録が一緒になっている。それぞれ趣旨が異なることから、今後は、個々に議事録を分けて記録を整備し、職員への意識を明確にすることを期待したい。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は虐待防止のセルフチェックを定期的に行っている。スキルアップ研修を開催し、学ぶ機会を設け、いかなる場合でも虐待を行わない事を実践している。	職員は、虐待防止のセルフチェックにより、自己評価及び目標を定め、研鑽に努めている。日頃から職員のメンタル面への配慮もしながら、不適切ケアがないかを話し合い、現在、虐待防止に係る事項を運営規定に追加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度、日常生活自立支援事業を利用されている方はいない。今後、全職員が制度を理解し活用できるよう研修の場を設ける。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を家族と確認をしている。加算の新設、料金の改定時は書面にて説明をし同意を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族から意見や要望を受けた場合には、即反映出来るように全職員が努めている。	運営推進会議・面会・受診同行等の折に、家族から意見を聞き、運営や個別的ケアの要望については、できる限り速やかに応じている。家族からは、多少のリスクはあっても、本人の行動を自由にして欲しいとの要望に、見守りを増やすなどして対応した事例もある。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回、人事考課シートで自己評価や意見を確認し、常に職員の耳に傾けている。又、職員会議にて自由に発言が出来る場を設けている。	月1回の職員会議や年2回の人事考課シートにより、職員は意見や思いを発出できる。日々の実践の中で、管理者や・ケアマネジャーに気づきや考えを口頭で伝えている。申し送りノートでも、現場の声として意見交換し改善に繋げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理者は常に職員の声に耳を傾け、相談しやすい環境に努めている。キャリアパス、人事考課制度、人材育成を取り入れ公平な評価を行っている。	子育て中の職員も、家庭と仕事の両立ができるよう、希望の勤務時間や休暇がとりやすいよう配慮している。休憩時間も適切に確保されている。また、管理者は相談しやすい雰囲気作りに努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する研修受講を支援している。新人職員には研修期間を設け、互いに学び合いながら、スキルアップできるよう努めている。	研修受講の為のシフト調整や補助金など、スキルアップへの支援がある。一部の職員が受けた外部研修内容をアウトプットし、全職員が共有する機会を設けている。2名の特定技能実習生の日本語理解の為の支援、住居の用意もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は法人の会議に毎週参加し、情報共有をしながら、ケアの質を高めれる様努力している。又、月1回ケアマネ会議も行われ、勉強会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの言葉に耳を傾け、個々の思いを大切にし、暮らしの中での役割や生きがいを見出せるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、本人、家族にホームでの暮らしについての思いなどを伺っている。日々の暮らしの中でのちょっとした会話にも耳を傾け、気づきノート等で共有している。	利用者について、正しく把握できるよう、入居時にはフェイスシートから生活歴等を丁寧に読み取り、家族からも情報を得ている。日々のケアの中で本人の思いをを汲み取り、生活記録・申し送りノート・気づきノートの内容を全職員で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全職員によるカンファレンスにてケアの検討を行い、介護計画の作成に努めている。	毎月の全職員によるカンファレンスで、ケアの検討を行いながら、介護計画を作成している。家族の意向は受診同行時や面会時に聞き取り、プランに反映させている。	感染症拡大状況にもよるが、今後は、家族の思いや要望等を直接聞ける場でもあるサービス担当者会議を家族参加にて開催できるよう期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表、生活記録表、気づきノートを活用し情報共有をはかり、日常の変化をもとに介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきや実践内容は、介護記録、生活記録、気づきノート、申し送りノートに記録し職員間で共有し、実践に繋げている。夜勤者は特に申し送りや諸記録により利用者の状況把握を十分に行い実践に活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に普段の会話や関わりを通して要望等を伺い、ニーズの把握に努めている。	家族のお墓参りや買い物、外食等の個別の要望に応えている。外食や喫茶店に行きたい等の希望には、事業所行事として取り組み、好評を得ている。また、針仕事が好きの人、日記を書いている人もあり、継続できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や施設内のレクリエーションや行事で暮らしが豊かになるように努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族対応を基本としている。都合がつかない時は事業所で支援している。協力医の往診もあり、看護師職員が日常の健康管理を行い、医師との連携体制が整っている。	かかりつけ医は、従来の主治医か協力医にするかを選択することができる。協力医以外の医療機関へは家族同行受診を基本としている。協力医の往診は月1回、歯科医は必要時に往診を受けている。日常的には看護師職員が健康管理を行い、医師との連携を図り、受診支援を行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを提供。入院中の情報については1Wごとに病院から得ている。退院後安心して生活して頂けるよう、関係機関と情報共有に努めている。	入院時にはサマリーにより情報提供し、入院中の情報は1週間ごとに事業所から病院に連絡を取り適宜ソーシャルワーカーと連携している。退院時はカンファレンスに管理者か看護師が出向き退院後の生活環境・ケア体制の調整が図れるよう努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り指針を提示している。状況の変化に応じ早い段階から本人、家族と話し合いを行い、職員全員が最後まで安心して過ごして頂ける様実践している。	入居時に看取り指針を説明し、終末期には家族に付き添いを依頼している。希望に応じて最後まで安心して過ごすことができるよう、マニュアルの整備、職員研修など体制を整えており、家族からの謝辞にも支えられている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生した場合は利用者の状況を把握し、管理者及び看護師に報告し、実践している。応急手当、初期対応の訓練は定期的実施する必要がある。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練の実施と下呂市主催の防災訓練に積極的に参加をし、避難方法を身に付けている。年2回消防署立ち会い訓練の実施、及び職員会議で研修を行っている。	土砂災害等を想定し、毎月15日に避難訓練を実施している。昨年の防災訓練には職員9名と利用者も数名参加し、避難先とした事業所近くのスポーツセンターへ全員で避難する訓練を実施している。備蓄品の整備を行い不測の事態に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声掛けが出来るよう情報共有しながら対応している。又、丁寧な言葉掛けを心掛けている。	入浴や排泄支援時には言葉かけにも配慮している。入浴介助は男性職員も行うが、同性介助を望む利用者には希望に応じている。利用者が他者の部屋を開けてしまう場合は、職員がさりげなく声かけし対応している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう傾聴、声掛け、関わりを大切にしている。又、分かりやすく、理解できる対応に努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や施設内のレクリエーションや行事で暮らしが豊かになるように努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームならではの温かい食事や郷土食を提供している。」食事の意欲維持の為に一緒にという意向を持ちながら片付けをしている。	管理栄養士が利用者の希望も把握しながら、季節の食材を活かした献立を立てている。職員が三食手作りし、利用者は準備や片付けなど思い思いに参加している。職員も、利用者と交互に座り、一緒にテーブルで見守りと介助をしながら食している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表によりバランスのとれた食事作りに努めている。必要に応じて刻み、ミキサー食を提供し支援している。水分量の少ない方には、一日をトータルとして考えている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をしている。口腔内の状況も把握し、口腔内清潔保持の支援に努めている。	毎食後、職員が歯磨きの声掛けをし、自力で行えない利用者には個別に支援している。夜間は義歯を預かり、紛失事故や消毒をするなど、適切に管理をしている。必要時は歯科医師の往診に繋げている。	

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し個々の排泄リズムに添った声掛けをし、トイレで排泄が維持できるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間内での順番は希望のある方、タイミングが合うように出来る限りお聞きし支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切にしながら、安心して安眠できるよう住環境をご本人の意向に応じながら整えている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理している。指示どおりに服薬できるように、見守り確認し努めている。	服薬時には、看護師が誤薬のないよう確認しながら手渡している。処方に変更があった時も、看護師が副作用や変化がないか、利用者の状況を観察しながら、主治医と連携を図っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割を持って頂けるように支援し、楽しみ作りに努め、ご本人の要望をお聞きし対応できるように努めている。	利用者は、季節の飾りや習字などの作品作り、長年書いている日記の継続、洗濯物たたみや縫物、調理の手伝いなどを行なっている。利用者が役割を担いながら、好きなことが実践できるよう、下準備や環境作りに努め、支援を行っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気と利用者の健康状態を把握しながら外気に触れられるよう支援に努めている。近隣の方から季節の野菜を頂いている。又、畑を借り玉ねぎを育てている。	天候や体調を踏まえ、散歩やドライブ、外食、喫茶店など、希望に応じて個別または、複数人での外出支援を行っている。また、畑で土に親しむなど、外気に触れながら気分転換が図れるよう支援している。	

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所の金庫で管理している。希望時には必要品を購入している。毎月、出納帳のコピーと領収書を家族に郵送している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回生活の様子、行事、外出での様子を手紙でお伝えしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口で季節の花を育てている。又、玄関や洗面所には季節の花を飾っている。個々の手作り作品を掲示し季節で楽しむ事が出来ている。	リビングは吹き抜けになっており、天井の障子から柔らかい自然光が入る。畳コーナーもあり家庭的な雰囲気が感じられ、玄関先や廊下等には季節の花が飾られている。リビングには利用者の季節感ある作品を飾り、壁には光触媒のグリーンアートを飾るなど居心地よい空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士、会話される方、時には一人になりたいときは居室で過ごされることもあり、思い思いの席で過ごされている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今までの暮らしが継続でき、安心した生活が送れるよう、使い慣れた家具、椅子、衣類等を持ち込んでいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	向日葵館から桜館は廊下でつながっており、お互いに行ききしやすく、利用者同士の交流や、歩行訓練の場となっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山 (向日葵館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	令和6年3月12日	評価結果市町村受理日	令和6年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(向日葵館)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに理念を掲示している。又職員会議で理念と理念の三本柱を唱和し、職員全員が意識し、理念の実践につなげている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が深まる様に、ボランティアの方々をお招きしている。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より奇数月に会議を行っている。活動報告、入退居状況、事故報告を行い出席者から意見をもらっている。以前と比べ、家族、地域の方々の参加が多数あり、より良い運営に活かしている。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回行政の参加があり、助言等を頂いている。又、管理者は行政主催の会議には参加するよう心掛け、常に関係を気づいている。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、玄関の施錠は行っていない。身体拘束適正委員会にて、常に検討、改善を行っている。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は虐待防止のセルフチェックを定期的に行っている。スキルアップ研修を開催し、学ぶ機会を設け、いかなる場合でも虐待を行わない事を実践している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度、日常生活自立支援事業を利用されている方はいない。今後、全職員が制度を理解し活用できるよう研修の場を設ける。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を家族と確認をしている。加算の新設、料金の改定時は書面にて説明をし同意を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族から意見や要望を受けた場合には、即反映出来るように全職員が努めている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回、人事考課シートで自己評価や意見を確認し、常に職員の耳に傾けている。又、職員会議にて自由に発言が出来る場を設けている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理者は常に職員の声に耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている。キャリアパス、人事考課制度、人材育成を取り入れ公平な評価を行っている。		
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する研修受講を支援している。新人職員には研修期間を設け、互いに学び合いながら、スキルアップできるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は法人の会議に毎週参加し、情報共有をしながら、ケアの質を高めれる様努力している。又、月1回ケアマネ会議も行われ、勉強会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの言葉に耳を傾け、個々の思いを大切にし、暮らしの中での役割や生きがいを見出せるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、本人、家族にホームでの暮らしについての思いなどを伺っている。日々の暮らしの中でのちょっとした会話にも耳を傾け、気づきノート等で共有している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全職員によるカンファレンスにてケアの検討を行い、介護計画の作成に努めている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表、生活記録表、気づきノートを活用し情報共有をはかり、日常の変化をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に普段の会話や関わりを通して要望等を伺い、ニーズの把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や施設内のレクリエーションや行事で暮らしが豊かになるように努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族対応を基本としている。都合がつかない時は事業所で支援している。協力医の往診もあり、看護師職員が日常の健康管理を行い、医師との連携体制が整っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを提供。入院中の情報については1Wごとに病院から得ている。退院後安心して生活して頂けるよう、関係機関と情報共有に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り指針を提示している。状況の変化に応じ早い段階から本人、家族と話し合いを行い、職員全員が最後まで安心して過ごして頂ける様実践している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生した場合は利用者の状況を把握し、管理者及び看護師に報告し、実践している。応急手当、初期対応の訓練は定期的の実施する必要がある。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練の実施と下呂市主催の防災訓練に積極的に参加をし、避難方法を身に付けている。年2回消防署立ち会い訓練の実施、及び職員会議で研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声掛けが出来るよう情報共有しながら対応している。又、丁寧な言葉掛けを心掛けている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう傾聴、声掛け、関わりを大切にしている。又、分かりやすく、理解できる対応に努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や施設内のレクリエーションや行事で暮らしが豊かになるように努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームならではの温かい食事を提供し、郷土食も取り入れている。食事の意欲維持の為に一緒にという意向を持ちながら片付けをしている。手作り昼食会では、利用者と一緒に調理をしている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表によりバランスのとれた食事作りに努めている。必要に応じて刻み、ミキサー食を提供し支援している。水分量の少ない方には、一日をトータルとして考えている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をしている。口腔内の状況も把握し、口腔内清潔保持の支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し個々の排泄リズムに添った声掛けをし、トイレで排泄が維持できるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間内での順番は希望のある方、タイミングが合うように出来る限りお聞きし支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切にしながら、安心して安眠できるよう住環境をご本人の意向に応じながら整えている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理している。指示どおりに服薬できるように、見守り確認し努めている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割を持って頂けるように支援し、楽しみ作りに努め、ご本人の要望をお聞きし対応できるように努めている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気と利用者の健康状態を把握しながら外気に触れられるよう支援に努めている。近隣の方から季節の野菜を頂いている。又、畑を借り玉ねぎを育てている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所の金庫で管理している。希望時には必要品を購入している。毎月、出納帳のコピーと領収書を家族に郵送している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回生活の様子、行事、外出での様子を手紙でお伝えしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口で季節の花を育てている。又、洗面所や玄関には季節の花を飾っている。向日葵館は桜館と違い生活空間がやや狭いが、掲示できるスペースは多く、個々の手作り作品を季節で楽しむ事が出来る。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士、会話される方、時には一人になりたいときは居室で過ごされることもあり、思い思いの席で過ごされている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今までの暮らしが継続でき、安心した生活が送れるよう、使い慣れた家具、椅子、衣類等を持ち込んでいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	向日葵館から桜館は廊下でつながっており、お互いに行ききしやすく、利用者同士の交流や、歩行訓練の場となっている。		